

国際会議CollabTech 2022において環境情報学研究科・環境情報学専攻の 博士後期課程1年の長谷川琳太さんがBest Paper Awardを受賞

2022年11月8～11日に国際会議「The 28th International Conference on Collaboration Technologies and Social Computing (CollabTech 2022)」がハイブリッドで開催されました。本会議の主テーマは、コンピュータを用いた協調活動の支援です。今年は22件の論文発表があり、そのうちの1件である環境情報学研究科博士後期課程1年の長谷川琳太さんの研究発表「Support by Visually Impaired: A Proposal for a System to Present Walkability on Maps Using White Cane Data」が、Best Paper Awardを受賞しました。長谷川さんは、環境情報学専攻の市野順子教授の研究室に所属しており、視覚障がい者に関するシステムの研究を行っています。本研究発表の特徴は、視覚障がい者を被支援者ではなく支援者と捉えた点にあります。歩行中の視覚障がい者は白杖を駆使して段差や障害物等の歩き難い箇所を検知していることに着目し、多数の視覚障がい者の白杖操作ログデータの機械学習を用いて認識された「歩き難さ」を地図上に提示し、高齢者や車いす利用者等晴眼者の歩行を支援するシステムを提案しました。



夢キャンパスで生態系ボードゲームを活用したイベントを開催

2022年5月22日に二子玉川にある東京都市大学夢キャンパスにおいて、環境学部環境創生学科北村研究室が親子向けのイベントを開催しました。本イベントは研究員の大学院生である佐々木媛都さんが作成したオリジナルのボードゲーム『EcoPyra エコピラー』（詳細は情報メディアジャーナルの第23号の佐々木・北村（2022）の論文を参照）を用いて、参加者に生態系の仕組みを遊びながら理解してもらうことを目的としています。当日は小学生と保護者の合計23名が参加し、実際にボードゲームで遊んでもらいました。参加者からは商品化の希望も出るなど、好評なイベントとなりました。また、北村准教授から生態系に関する講義があったり、ルーフガーデンにおいてゲームに出てくる生き物を一緒に探す自然観察を行ったりするなど、総合的に生態系を理解できるイベントとなりました。夢キャンパスにおける同様のイベントは7月と12月にも開催され、それぞれ13名と10名の小学生と保護者が参加しています。



二子玉川ライズルーフガーデンでの自然観察



北村准教授による講義

環境学部田中研究室が第4回東急グループ環境・社会貢献賞「特別賞」を受賞

環境学部田中章研究室では2010年から静岡県下田市において地球レベルの絶滅危惧種であるアカウミガメの産卵地保全活動を伊豆地域の人々と連携しながら続けてきました。この度、伊豆急下田駅に地元の下田高校の学生たちとの合作によるアカウミガメ保全のポスターを掲示したり、東急車両内にアカウミガメ保全ポスターが掲示されたりなど東急グループ内での協働が評価されました。

なお、当研究室は今回を含め8回、東急環境賞を受賞しています。

- 2020年 【奨励賞】「バラ類の無農薬・無化学肥料栽培」
- 2019年 【奨励賞】「『ハビタット植物図鑑』の提案」
- 2018年 【期待賞】「東京都市大学×東京都市大学塩尻高等学校 高大接続プログラム」
- 2017年 【努力賞】「アカウミガメ産卵地保全を含む里海バンキングに向けた活動」
- 2016年 【期待賞】「HEP (Habitat Evaluation Procedure) 普及に伴う波及効果」
- 2015年 【期待賞】「東急グループにおける里山バンキングの提案」
- 2011年 【努力賞】「中庭ビオトープの取り組み」



ポスターを制作した下田高校と当研究室の面々



弓ヶ浜に設置したアカウミガメ保全の看板

日本建築学会 Japan Architectural Review誌「Most Cited Paper Award 2020」を共同受賞 リジャルH.B. (環境情報学研究科)

この度、日本建築学会のJapan Architectural Review誌の「Most Cited Paper Award 2020」をOxford Brookes大学のHumphreys M.A. 名誉教授とNicol J.F. 名誉教授と共同受賞しまして¹⁾ (図1)、非常に嬉しいです。受賞理由は論文の引用数が高く、論文の社会的インパクトが大きいからです。論文のタイトルは「日本の住宅における環境調整行動を予測するための適応的温熱快適性に基づく窓開放アルゴリズムの開発」であり、2018年5月に掲載されました²⁾。現在の引用数はGoogle Scholarでは60回になっています³⁾。本学も「THE世界大学ランキング」に登録されており、ランキングの評価項目の比重は、研究（評判調査、研究収入、論文数）が30%、論文被引用数が30%を占めています⁴⁾。よって、引用数を増やすことは、本学の国際化と世界における本学のランキングの向上にも繋がります^{5), 6)}。

参考文献

- 1) <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/2475-8876.12291>
- 2) <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.1002/2475-8876.12043>
- 3) <https://scholar.google.co.jp/citations?user=uYrVzGYAAAAAJ&hl=ja>
- 4) <https://www.nippon.co.jp/in-depth/a05102/>
- 5) リジャルH.B.: Scopus論文数と引用数を増やす方法。In: 学術推進のためのアカデミアを支える人材像とは？, 2021年度日本建築学会大会（東海）パネルディスカッション資料, 日本建築学会 企画運営委員会 若手教育 タスクフォース, pp. 32-33, 2021.9.
- 6) <https://www.facebook.com/100006912481008/videos/183662450516764/>

